



## Q 保留児童の実態と対策は

ふくしま めぐみ  
福島 恵美 議員



## A 厳しい状況は続くが対応していきたい

**問** 本市は「10年連続待機児童ゼロ」を誇っているが、希望どおりの保育所などを利用できない「保留児童」が発生している。「待機児童ゼロ」のメッセージで市民が混乱している現状があるのではないか。実態と分析は。

**答** 直近5年間の合計は166人である。令和5年度の保留児童数は49人で、0〜2歳児が73%を占める。保護者の短時間勤務や求職中など入所審査の際の指数が低いことや希望する施設数が少ないなどの要因が多い。

**問** 対応と今後の対策は。

**答** 認可保育所などの施設整備をはじめ、利用定員を上回る受入れを行ってきた。しばらくは入所希望児童数が利用定員を上回ると予想するが、弾力的な受

入れを継続的に実施するほか、既存の私立幼稚園の認定こども園化などで対応していく。

**問** 現状では保護者の多様なニーズにこたえられていない。市長が掲げる「子どもにやさしいまちづくり」が届いていない保護者へメッセージがあれば。

**答** 0〜2歳児の厳しい状況はしばらく続くが、きちんとした形で手を打っていききたい。

◎その他の質問

一 災害対策の見直しを

二 脚折雨乞を活かす施策

## Q ヘルプマークの認知度向上へ

こんの ゆういち  
今野 雄一 議員



## A 多様な媒体で、積極的な情報発信をしていきたい

**問** 本市での、ヘルプマークの配布対象者と配布方法は。

**答** 市内在住の障害のある方、難病の方や妊娠初期の方など、援助や配慮を必要とする方を配布対象者としている。障害者福祉課にて、県のガイドラインに基づき障害の状況などの聞き取りを行い、趣旨や使用方法を説

明し、無償で配布している。

**問** 利用者の利便性向上のため、若葉駅前出張所など配布場所の拡大を。

**答** 電車などで見かけることも多く、配布場所の問合せも来っており、大変に普及してきている。今後、配布希望者の声を伺いながら、若葉駅前出張所や保健



ヘルプマーク利用者に援助を

センターなどでの配布も検討したい。

**問** ヘルプマークの認知度に課題があり、優先席の使用を非難されることもあるとのこと。認知度の向上への取組が引き続き必要と考える。プッシュ型の情報発信を。

**答** ポスターやホームページへの掲載に加え、障害者交流フェスティバルなどでの周知や、つるポツケ・広報紙などの多様な媒体で、積極的な情報発信に努めたいと考えている。

◎その他の質問 心のサポート―養成事業について